

# Panasonic®

多機能ツアーアンブ

## 取扱説明書

品番

### CB-Q200D



#### 保証書別添付

- このたびは、パナソニック バス用機器をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
そのあと保存し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

# 特長

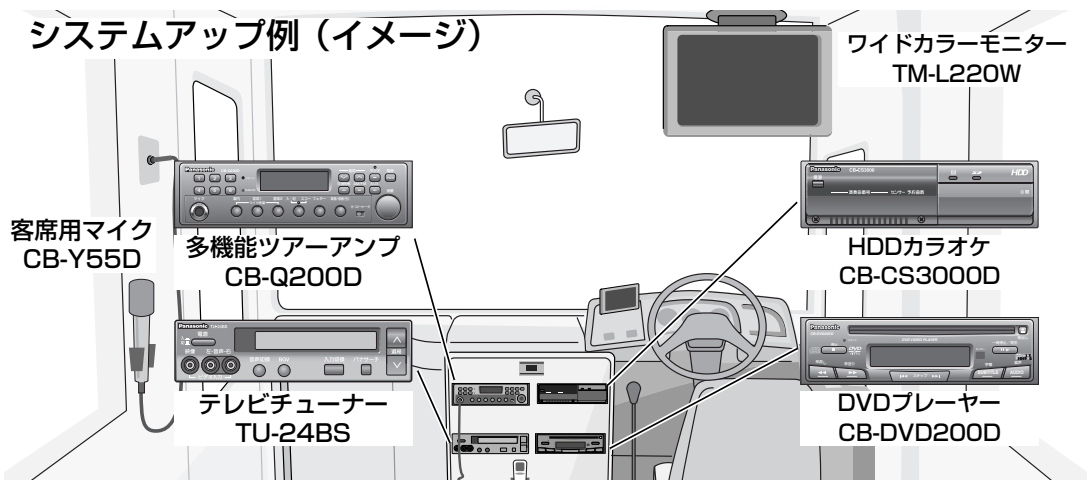
## ■ バス用としての様々な機能を装備

- **マイク入力端子**（案内用に一つ、客席用に二つ）（[P.15, 23ページ](#)）  
マイクの音量はそれぞれ個別に調整できます。
- **デジタルエコー調整機能**（[P.15ページ](#)）  
マイクの音声にエコーをかけることができ、さらに効果を調整することもできます。
- **車内スピーカー/車外スピーカー出力切り替えスイッチ**（[P.17ページ](#)）
- **運転席用のラジオモニター出力**（[P.23ページ](#)）  
別売りのワイヤードリモコン（CB-C12D）とインターホンセット（CB-S53D）を接続することにより、他のソースを再生中でも運転席にだけラジオの音声を出力することができます。  
※ワイヤードリモコン（CB-C12D）では、ラジオのバンド切り換え、自動選局、交通情報の受信、音量調整ができます。

## ■ 本機を中心としたさまざまなシステムアップが可能

- **HDDカラオケ**（CB-CS3000D/CS1000D）→本機の外部入力端子へ接続  
バスの中にながら、背景動画や効果音演出などの多機能カラオケを楽しむことができます。
- **DVDプレーヤー**（CB-DVD200D）→本機のプレーヤー入力端子へ接続可能  
DVDビデオ・ビデオCDの映像と音声、音楽CDの音声を楽しむことができます。
- **CDプレーヤー**（CB-CD200D）→本機のプレーヤー入力端子へ接続可能  
音楽CDの音声を楽しむことができます。
- **カセットプレーヤー**（CB-C200D）→本機のプレーヤー入力端子へ接続可能  
カセットテープの音声を楽しむことができます。
- **テレビチューナー**（TU-24BS）→本機の外部入力端子へ接続可能  
テレビの映像と音声を楽しむことができます。  
※映像をお楽しみ頂くためには、テレビ（モニター）の接続が必要です。

### システムアップ例（イメージ）



#### お知らせ

- DVDプレーヤー（CB-DVD200D）とCDプレーヤー（CB-CD200D）は同時に接続できません。
- HDDカラオケは、CB-CS3000DかCB-CS1000Dのいずれかをお選びください。
- 対応している電源（バッテリー/アクセサリ）電圧は機種により一部異なります。詳しくは「配線のしかた」（[P.22ページ](#)）および接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

# もくじ

## ご使用前に

特長	2
安全にお使いいただくために	4
使用上のお願い	7
付属品・添付品の確認	7
各部のなまえとはたらき	8

## 使いかた

### 基本操作 10

- 電源を入れる
- 電源を切る
- 音量を調整する

### 音質を調整する 11

- 高音を強調する
- 低音を強調する
- 前後のスピーカーの音量バランスを調整する

### ラジオを聞く 12

- ラジオモードにする
- ラジオのバンドを選ぶ
- 放送局を選ぶ
- 放送局を自動で探し、記憶させる
- 放送局を一つずつ記憶させる
- 記憶された放送局を呼び出す

### 交通情報を受信する 14

- 交通情報を受信する
- 周波数を切り替える
- もとの状態に戻す

### マイクを使う 15

- マイクの音量を調整する
- エコーを調整する

### 他の機器の音声を聞く(AUX) 16

- 外部音声入力(AUX)に切り替える

### スピーカー出力を切り替える 17

- スピーカー出力(車内/車外)を切り替える

## 必要なときに

### 故障かな!? 18

### 配線・取り付けの前に 20

### 取り付けかた 21

### 配線のしかた 22

### お手入れのしかた 28

### 仕様 29

### アフターサービスについて 30

# 安全にお使いいただくために

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

- 表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



## 警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



## 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。  
(下記は、絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## 警告

**運転者は走行中に操作をしない  
また、画像・表示を注視しない**



禁止

走行中の操作や画像・表示の注視は、前方不注意による交通事故の原因になります。  
必ず安全な場所に停車させてから操作してください。

**取り付け・アース配線等に、保安  
部品を絶対に使わない**



禁止

保安部品（ステアリング・ブレーキ系統・タンクなど）のボルト・ナット・ビスを使用すると、事故の原因になります。  
説明に従い、付属品や指定の部品を使用してください。

**DC24V $\ominus$ アース車で使用する**



本機はDC24V $\ominus$ アース車専用です。DC12V車には使用できません。火災や故障の原因になります。

**配線・取り付け作業中は、  
バッテリーの $\ominus$ 端子を必ずはずす**



バッテリーの $\ominus$ 端子をつないだまま配線・取り付け作業をすると、ショート事故による感電やけがの原因になります。

## 警告

### 故障や異常のまま使用しない



禁止

万一、故障（画像が映らない・音が出ないなど）や異常（異物が入った・水がかかった・煙が出る・異臭がするなど）が起こった場合は、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」（別紙）に相談してください。そのまま使用を続けると、事故や火災・感電の原因になります。

### 必ず規定容量のヒューズを使用する また、交換は専門技術者に依頼する



規定容量を超えるヒューズを使用すると、発煙・発火、故障の原因になります。ヒューズの交換や修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」（別紙）に依頼してください。

### コード類は、運転や乗り降りの妨げにならないよう引き回す



ステアリング・シフトレバー・ブレーキペダル・足などに巻き付かないように引き回し、まとめたり固定しておくなどしてください。事故やけがの原因になります。

### 指定に従って設置・配線する



説明に従って正しく設置・配線しないと、事故や火災の原因になります。

### 分解・修理、および改造をしない



分解禁止

分解・修理、改造、コードの被覆を切って他の機器の電源を取るのはやめてください。火災・感電、故障の原因になります。

## 注意

### 配線・取り付けは、専門技術者に 依頼する



配線・取り付けには専門技術と経験  
が必要です。  
安全のため、必ずお買い上げの販売  
店に依頼してください。

### 必ず付属品や指定の部品を使用する



指定以外の部品を使用すると、  
機器の内部を損傷したり、しっ  
かり固定できずにはずれるな  
ど、事故や故障、火災の原因に  
なることがあります。

### 水のかかる場所、湿気や埃の多い 場所で使用しない



禁止

発煙・発火・感電・故障の原因にな  
ることがあります。  
特に洗車や雨のときなどに、水がか  
からないようにしてください。

### コードを破損しない



禁止

断線やショートにより、感電や  
火災の原因になることがあります。

- 車体やねじ・可動部（シート  
レールなど）への挟み込みで  
破損しないように引き回す。
- 傷つける、無理に引っ張る、折り  
曲げる、ねじる、加工する、熱器  
具へ近づける、重いものをのせる  
などしない。

### 本機の通風孔や放熱板をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災や故障の  
原因になることがあります。

### 適正な音量で使用する



車外や周囲の音が聞こえない状態  
での運転は、事故の原因になること  
があります。

# 使用上のお願い

## 他の機器と接続する場合は

- 各機器の取扱説明書も併せてよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

## 携帯電話や、業務用無線機器を使用する場合は

- 携帯電話や、業務用無線機器を置く位置や向きによっては、雑音を生じることがあります。できるだけ本機から離してご使用ください。

## 本機の取り扱いについて

### 業務用車両（バス）以外には使用しないでください

- 業務用車両（バス）以外（例えばレジャーボートやアウトドアなど）に使用すると、発煙・発火、感電やけが、故障の原因になる場合があります。

## 免責事項について

- 火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他の異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、記録内容の変化・消失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。

# 付属品・添付品の確認

万一不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

## 付属品

- 配線・取り付け用部品（☞20ページ）

## 添付品

- 取扱説明書（本書） ●保証書 ●お客様ご相談窓口一覧表

# 各部のなまえとはたらき

## プリセットボタン 1~6

- 放送局を記憶させる / 呼び出す

## 選局ボタン $\wedge$ $\vee$

- 放送局を選ぶ

## 電源ボタン

- 電源を入れる/切る

## ラジオボタン

- ラジオモードにする



## 交通情報ボタン

- 交通情報を受信する

## AM/FMボタン

- ラジオのバンドを選ぶ
- 放送局を自動で探し、記憶させる

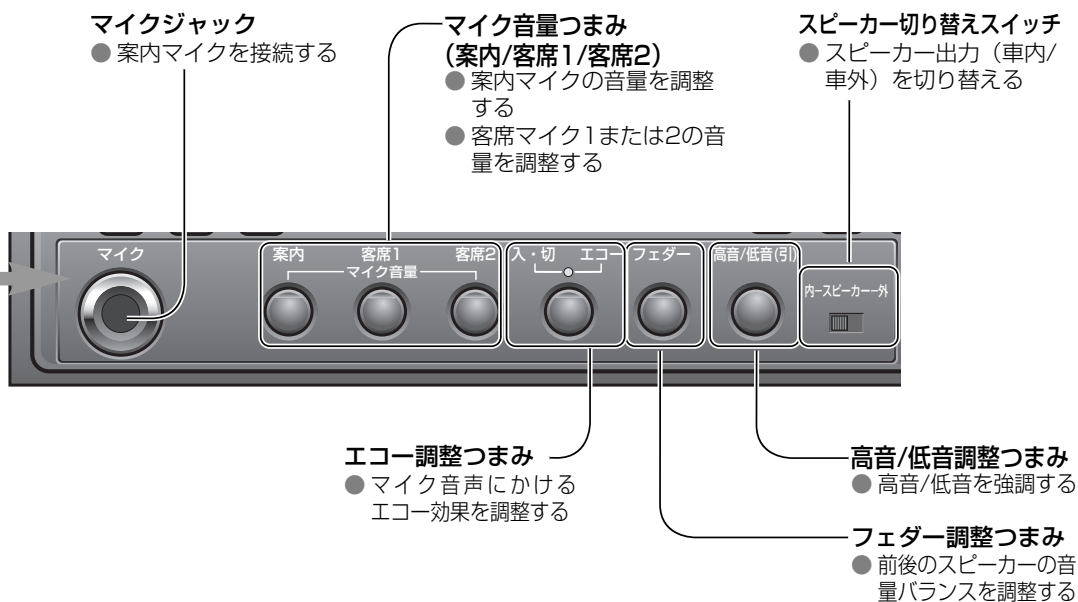
## AUXボタン

- 外部音声入力に切り替える

## 音量調整つまみ

- 音量を調整する






後面の端子については、「配線のしかた」をご覧ください (P.22ページ)


# 基本操作



電源を入れる

- ① 車のエンジンをかける  
(「ACC ON」でも可)
- ②  を押す

電源を切る

電源が入っているときに  
 を押す

音量を調整する



初期設定：18  
調整範囲：0~40

# 音質を調整する



高音/低音調整つまみ

フェダー調整つまみ

高音を強調する

- ① 押して引き出す
- ② 高音/低音(引) 低減 (回す) 強調

低音を強調する

- ① 押して引き出す
- ② さらにつまんで引き出す
- ③ 高音/低音(引) 低減 (回す) 強調


前後の  
スピーカーの  
音量バランス  
を調整する

- ① 押して引き出す
- ② フェダー 前方を強調 (回す) 後方を強調

# ラジオを聞く




ラジオモードにする

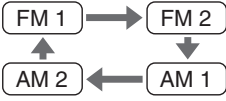
ラジオ  を押す


- 再度押すと、ラジオの音声が聞こえなくなり、マイクからの音声だけが聞こえる状態になります。もう一度押すともとの状態に戻ります。

ラジオのバンドを選ぶ

AM/FM  を押す

FMステレオ放送を受信したときに表示 (AMステレオ放送には対応していません)



バンド 

放送局を選ぶ

手動で選ぶ  を押す

自動で選ぶ  を0.5秒以上押しはなす

- 放送局を受信すると、止まります。

## 放送局を記憶させるには

各バンド（FM1、FM2、AM1、AM2）ごとに、放送局を最大6局まで記憶させることができます。

放送局を  
自動で探し、  
記憶させる

① バンドを選ぶ  
( 12ページ)

②  を2秒以上押す

- 受信状態のよい放送局が、プリセット番号1から順に上書きされ、更新されます。


終了すると



- 受信状態の良い放送局が、プリセット番号1から順に上書きされ、更新されます。



プリセット番号表示

放送局を  
一つずつ  
記憶させる

① バンドと周波数を選ぶ  
( 12ページ)


②  から  までの  
いずれか一つを2秒以上押す



- プリセット番号と周波数の表示が一回点滅し、受信している放送局が、選んだプリセット番号に上書きされ、更新されます。

**お知らせ**

- 記憶された放送局は、操作をするたびに上書きされ、更新されます。

記憶された  
放送局を  
呼び出す

① バンドを選ぶ  
( 12ページ)

②  から  までの  
いずれか一つを押す

- 記憶されている放送局を受信します。

# 交通情報を受信する

外部音声入力 (AUX) や、接続したプレーヤー (CDなど) の音声を聞いているときでも、ボタン一つで交通情報を受信できます。また、放送局を二つの周波数から切り換えて選択することもできます。  
(初期設定 : AM 1620 kHz)



交通情報ボタン

交通情報を受信する

交通情報  
- を押す



周波数を切り替える

交通情報受信中に

交通情報  
- を2秒以上押す

1620 kHz ↔ 1629 kHz

もとの状態に戻す

ラジオ : ラジオ  
- を押す

AUX : AUX  
- を押す

接続したプレーヤー :  
プレーヤーの[再生]ボタンを押す

# マイクを使う

**準備** マイクを接続してください。客席マイクの接続のしかたについては、「配線のしかた」(P22ページ)を参照してください。

マイクジャック

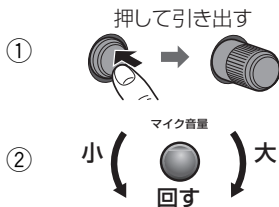
エコーがきいているときに点灯 (エコーLED)



マイク音量つまみ  
(案内/客席1/客席2)

エコー調整つまみ

## マイクの音量を調整する

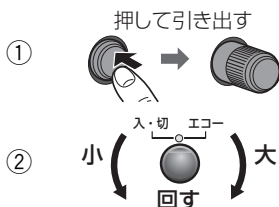


案内：  
本機に接続したマイクの音量  
客席1/客席2：  
客席に接続したマイクの音量

### お知らせ

- マイク以外の音量は、[音量調整つまみ]で調整してください。(P10ページ)
- マイクのON/OFFは、マイクのスイッチで行ってください。

## エコーを調整する



### お知らせ

- エコー効果は[Eコー調整つまみ]が引き出された状態でのみ有効です。使用中は引き出されたままの状態にしてください。
- エコー効果が有効なときは、エコーLEDが点灯します。
- エコー効果はマイク音声にのみ有効です。


# 他の機器の音声を聞く (AUX)

**準備** 外部入力端子に、他の機器 (HDDカラオケ : CB-CS3000Dなど) を接続してください。  
([P.24~27ページ](#))



AUXボタン

外部音声入力  
(AUX) に  
切り替える

 を押す

- 外部入力端子に接続した機器の音声が出力されます。
- 操作のしかたは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。





# スピーカー出力を切り替える

**準備** 車外スピーカーコードに、車外スピーカーを接続してください。(P.22ページ)



スピーカー切り替えスイッチ

スピーカー出力  
(車内/車外) を  
切り替える



内(左側)：車内のスピーカーから音が出る  
外(右側)：車外のスピーカーから音が出る

# 故障かな!?

## 症状

## 原因・処置

## ページ

### ● 電源・共通

電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●車のエンジンをかけてください。(「ACC ON」でも可)</li> <li>●各コードの接続を確かめてください。</li> <li>●本機、または接続した機器のヒューズが切れている。 →お買い上げの販売店にヒューズの交換を依頼してください。</li> </ul>	<p>— 22~27</p> <p>—</p>
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スピーカー出力の設定が「外」になっている。 →「内」に切り替えてください。</li> <li>●音量を上げてください。</li> <li>●各コードの接続を確かめてください。</li> </ul>	<p>17</p> <p>10 22~27</p>
雑音が出る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本機およびシステムで接続された機器の近くに、業務用無線機器など雑音の原因になるものがないか確認してください。</li> <li>●アースコードがしっかりと車体の金属部に接続されているか確かめてください。</li> </ul>	<p>—</p> <p>22~27</p>

### ● 音量バランス調整

前後の何れかの音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●[フェダー調整つまみ]で、前後のバランスを調整してください。</li> <li>●各コードの接続を確かめてください。</li> </ul>	<p>11</p> <p>22~27</p>
ステレオのとき、左右の音が逆になる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スピーカーコードの接続を確かめてください。</li> </ul>	<p>22</p>

### ● ラジオ

ノイズが多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●放送局の電波が弱い。→放送局を変えてください。</li> <li>●アンテナのアースの接触を確かめてください。</li> </ul>	<p>12</p> <p>—</p>
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラジオLEDが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、[ラジオボタン]を押してください。</li> </ul>	<p>12</p>

## こんな表示が出たときは

## 表示

## 原因・処置

E 90	<ul style="list-style-type: none"> <li>●接続したプレーヤーが、他のソースを聞いているときに停止しない。</li> </ul> <p><b>車のエンジンをかけなおすか、またはACC電源を入れなおしてください。</b></p> <p>→動作しない場合には、[リセットスイッチ]を押してください。</p> <p>→それでも動作しない場合には、設定を初期の状態に戻してください。</p> <p>→正常に戻らない場合には、お買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」(別紙)に修理を依頼してください。</p>
E 91	<p>(This row is merged into the E 90 row in the original image, so no separate content is provided for E 91.)</p>

## マイクでの話し始めなどに、音切れが気になる場合は（M-MUTE）

折れにくい棒状のもので、[M-MUTEスイッチ]（無音検出ミュート）をまっすぐに押し、M-MUTEをオフにしてください。

初期設定：M-MUTE オン

- 無音時のノイズが気になる場合は、再度押ししてM-MUTE をオンにしてください。

M-MUTE オン時に点灯



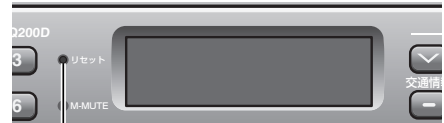
M-MUTE（無音検出ミュート）スイッチ

## どのボタンを押しても動作しない場合には

折れにくい棒状のもので、[リセットスイッチ]をまっすぐに押ししてください。電源が一度切れ、再び入ります。（記憶されている設定・調整は消去されません）

リセットしても正常に戻らない場合は

設定を初期の状態に戻してください。それでも正常に戻らない場合には、お買い上げの販売店、またはお近くの「ご相談窓口」（別紙）に修理を依頼してください。



リセットスイッチ

## 設定を初期の状態に戻すには

交通情報受信中に

- ① **6** を2秒以上押す



- 上のような表示になります。

- ② **1** を2秒以上押す

- 記憶されている設定・調整が消去され、電源が切れます。（出荷時の初期設定になります。）

途中でやめるには

- 手順 ① のときに **6** を再度押す

## 万一、故障や異常が起こったら

すぐに電源を切ってください。

煙が出ていないこと、熱くないことを確認してから電源の接続をはずし、お買い上げの販売店またはお近くの「ご相談窓口」（別紙）に修理を依頼してください。

お客様による修理は、絶対におやめください。

# 配線・取り付けの前に

## 警告

分解・修理、および改造をしない



分解禁止

分解・修理、改造、コードの被覆を切って他の機器の電源を取るのはやめてください。火災・感電、故障の原因になります。

## 注意

配線・取り付けは、専門技術者に依頼する



配線・取り付けには専門技術と経験が必要です。安全のため、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

## 配線・取り付け部品の確認

万一不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

### ● 配線関係

品名	個数
① 電源コード	1
② マイクコード	1

### ● 取り付け関係

品名	個数
③ 座付きねじ (M5 × 8 mm)	4
④ 座付きタッピンねじ (φ5 × 16 mm)	4
⑤ L型金具	2
⑥ スペース/両面テープ	各2

## ■ 取り付けの配置について

システムで取り付ける場合は、以下のような配置で取り付けてください。

- 二つ重ねるときは、必ずアンプを上に取り付ける。
- DVDプレーヤー/CDプレーヤーとツアーアンプ/テレビチューナーはなるべく離して取り付ける。

例)

フルシステムの場合

HDDカラオケ CB-CS3000D
テレビチューナー TU-24BS

多機能ツアーアンプ CB-Q200D
カセットプレーヤー CB-C200D

DVDプレーヤー CB-DVD200D (またはCDプレーヤー CB-CD200D)
---

## 作業の順序

### ① バッテリーの⊖端子をはずす

### ② 配線する (P22~27ページ)

- 他の機器と接続する場合には、各機器の説明書も併せてよくお読みのうえ、配線してください。
- ショート事故防止のため、電源コードのコネクターは、必ず全ての配線をすませてから接続してください。

### ③ 取り付ける (P21ページ)

### ④ バッテリーの⊖端子を、もとに戻す

取り付け・配線の作業時には、安全のため必ず手袋をご使用ください。

DVDプレーヤー+ツアーアンプ+HDDカラオケの場合

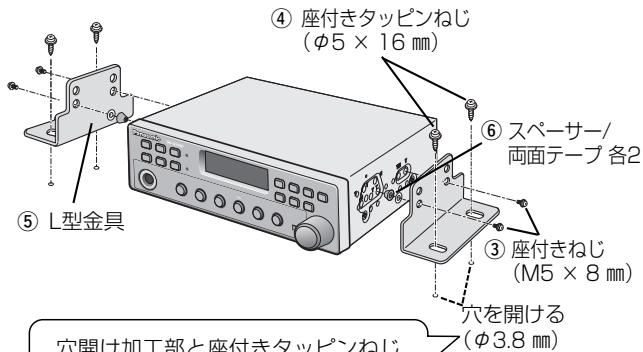
HDDカラオケ CB-CS3000D
DVDプレーヤー CB-DVD200D (またはCDプレーヤー CB-CD200D)

多機能ツアーアンプ CB-Q200D
-----------------------

# 取り付けかた

ショート事故防止のため、電源コードのコネクターは、必ず全ての配線をすましてから接続してください。

## ■ 床などに取り付ける場合

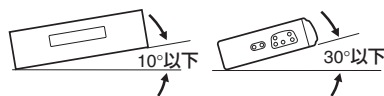


穴開け加工部と座付きタッピンねじに防錆剤を塗ってください。

## お願い

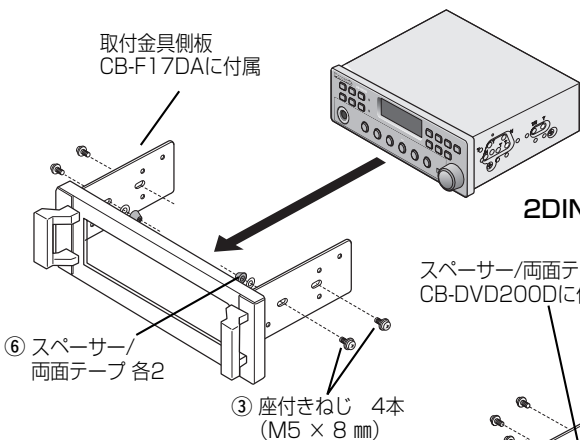
- 以下の場所へ取り付けしないでください。故障の原因になります。
  - ・直射日光のあたる場所や著しく熱くなる場所
  - ・水のかかるところ、足で踏まれるところ
  - ・ほこりの多いところ
- なるべく水平になるように取り付けてください。

## 許容傾斜角度

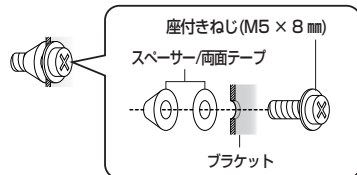


## ■ コンソールボックスに取り付ける場合

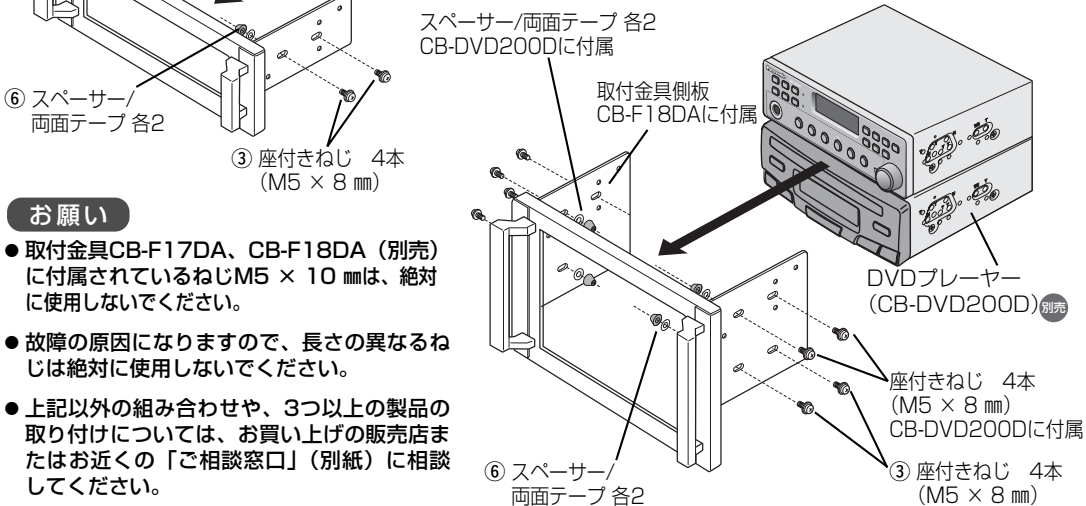
### 1DIN取付金具 (CB-F17DA) 別売 を使用する場合



ブラケットが不安定な場合には、スペーサーで取り付けを補強し、固定してください。



### 2DIN取付金具 (CB-F18DA) 別売 を使用する場合



## お願い

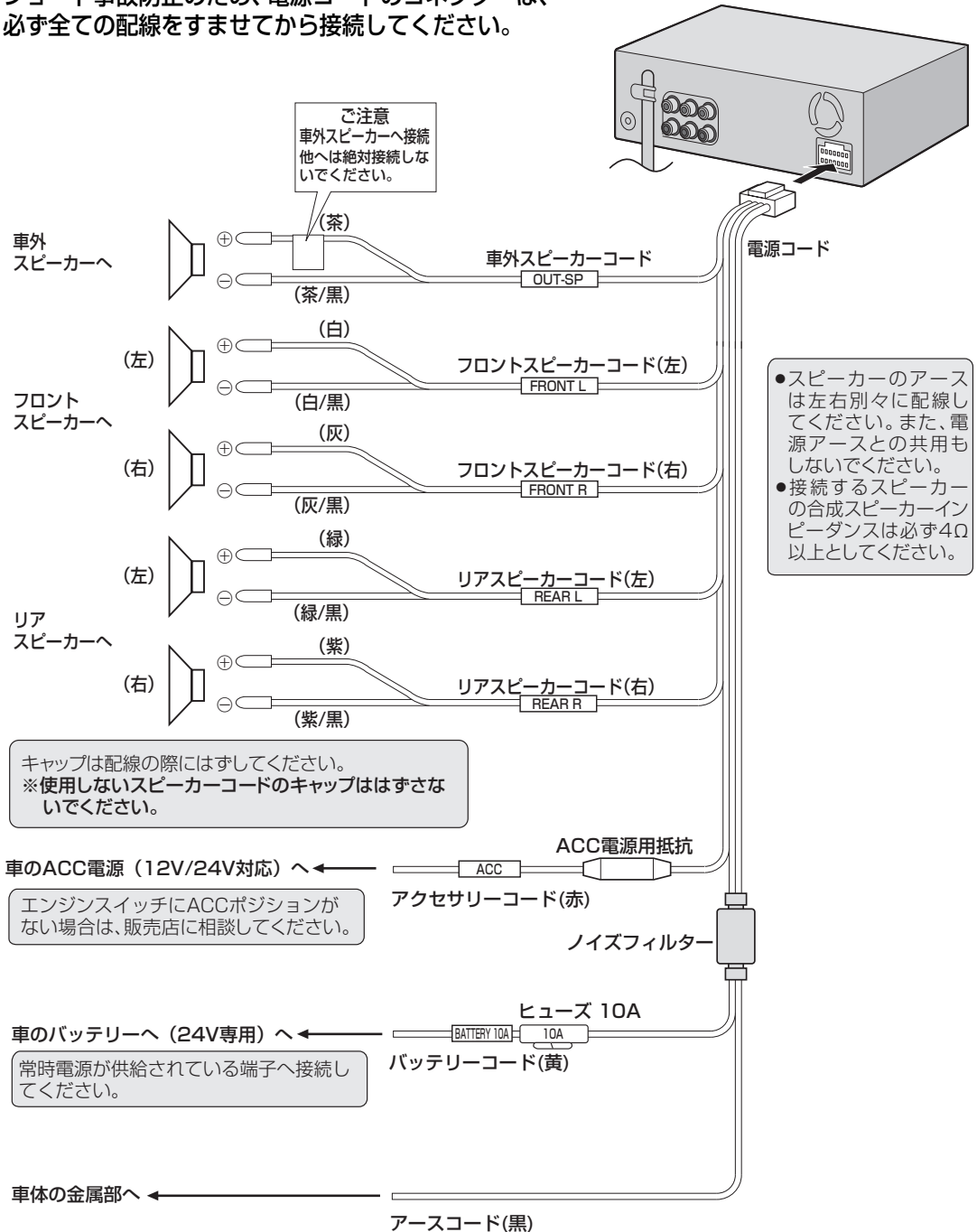
- 取付金具CB-F17DA、CB-F18DA (別売) に付属されているねじM5 × 10 mmは、絶対に使用しないでください。
- 故障の原因になりますので、長さの異なるねじは絶対に使用しないでください。
- 上記以外の組み合わせや、3つ以上の製品の取り付けについては、お買い上げの販売店またはお近くの「ご相談窓口」(別紙)に相談してください。

必要に応じて

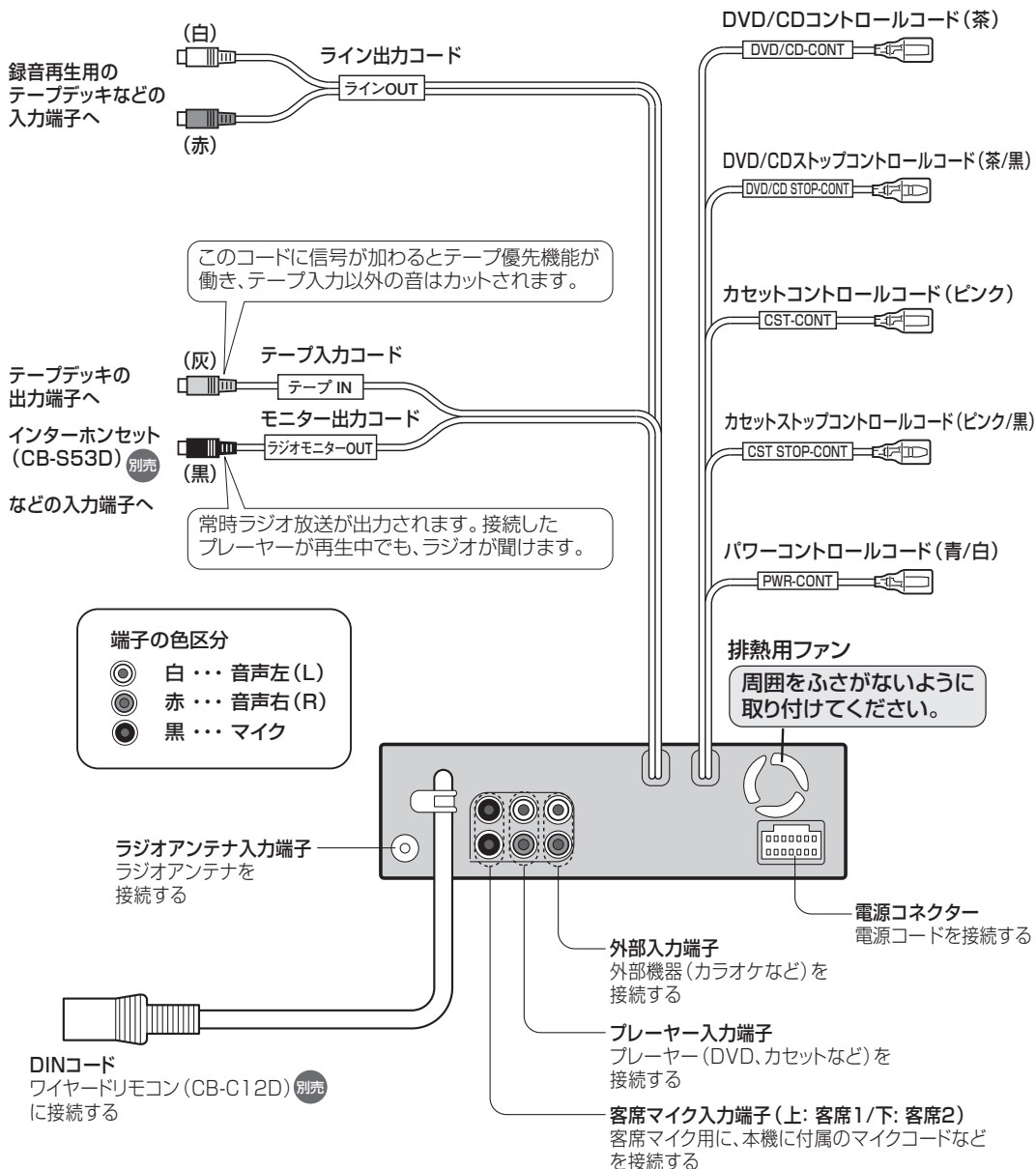
# 配線のしかた

## 基本配線（付属コードの接続）

ショート事故防止のため、電源コードのコネクターは、必ず全ての配線をすませてから接続してください。



# 後面端子部

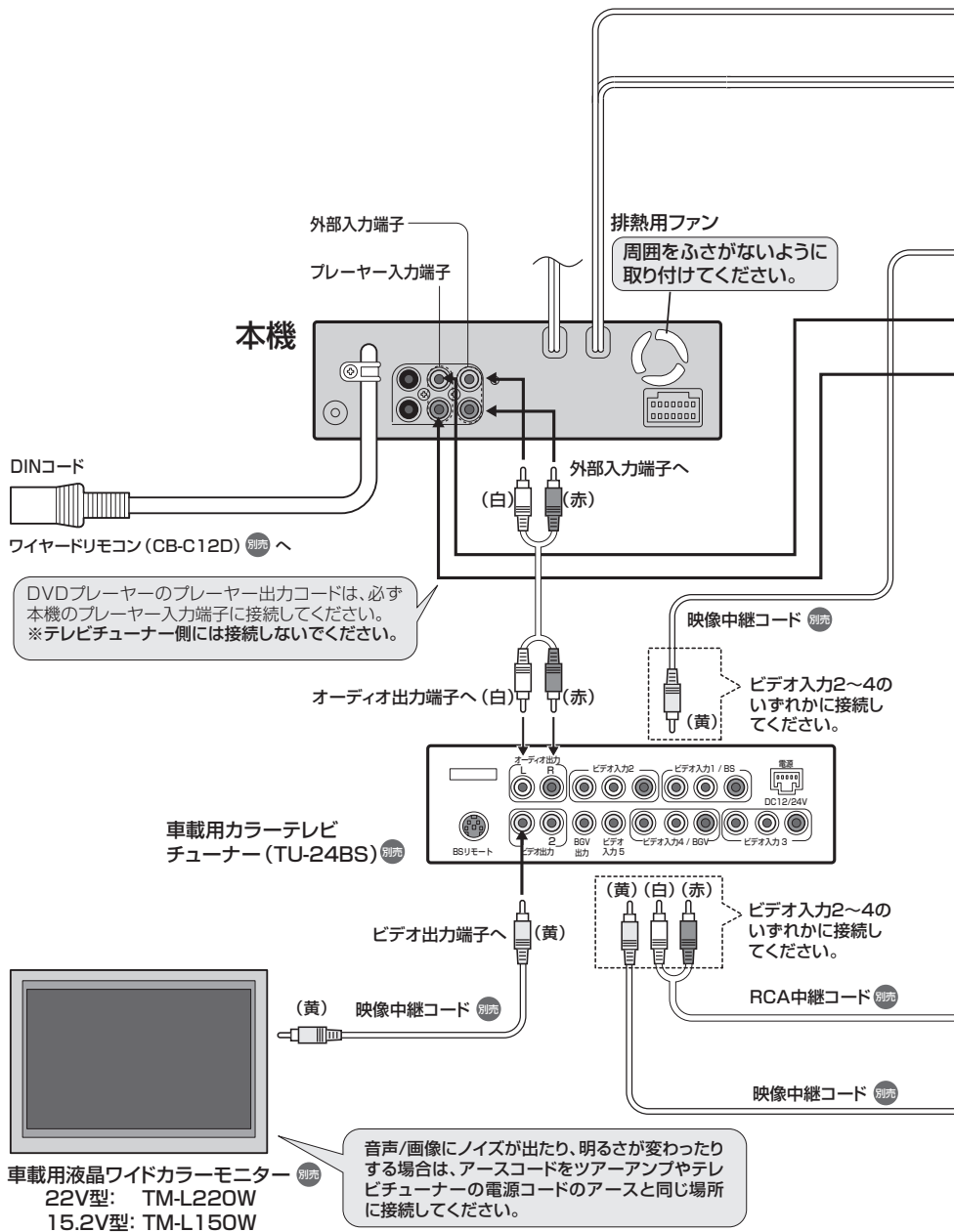


必要に応じて

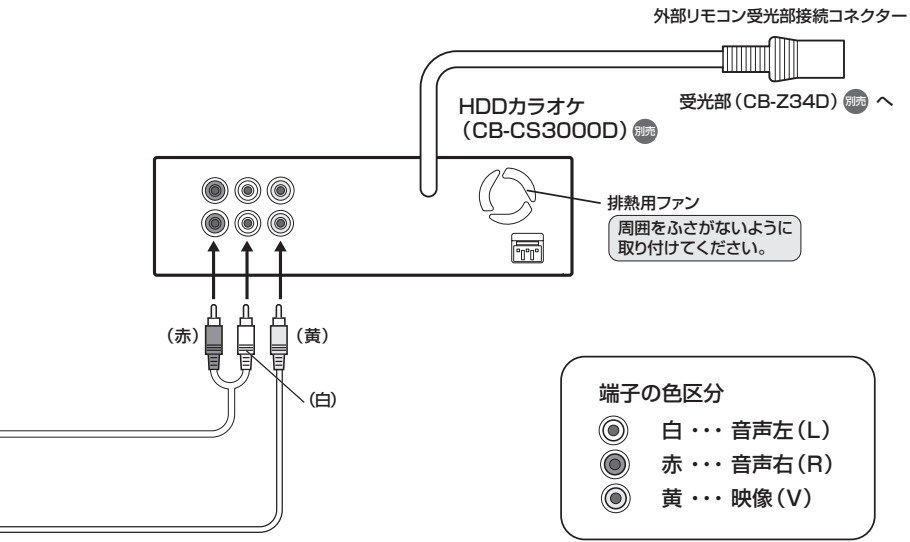
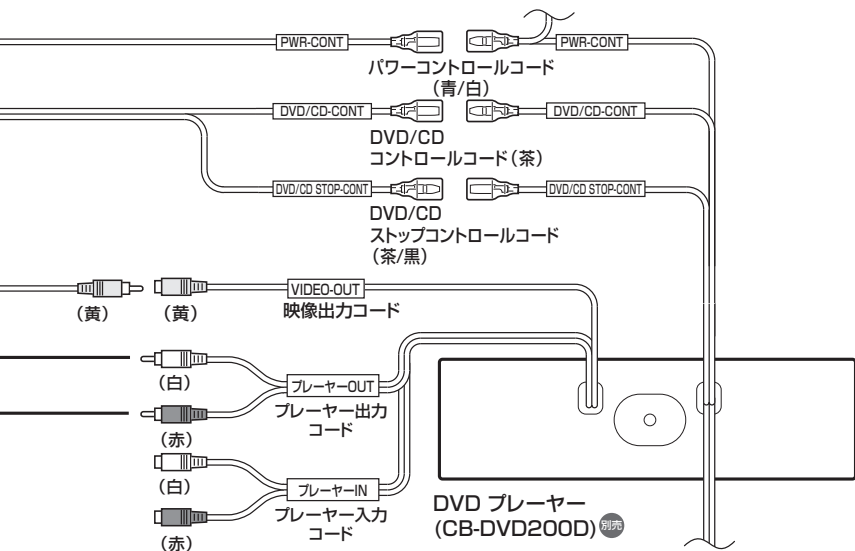
# 配線のしかた

## DVDプレーヤー・HDDカラオケ・テレビチューナーを接続する

接続する各機器の取付説明書も、併せてご覧ください。





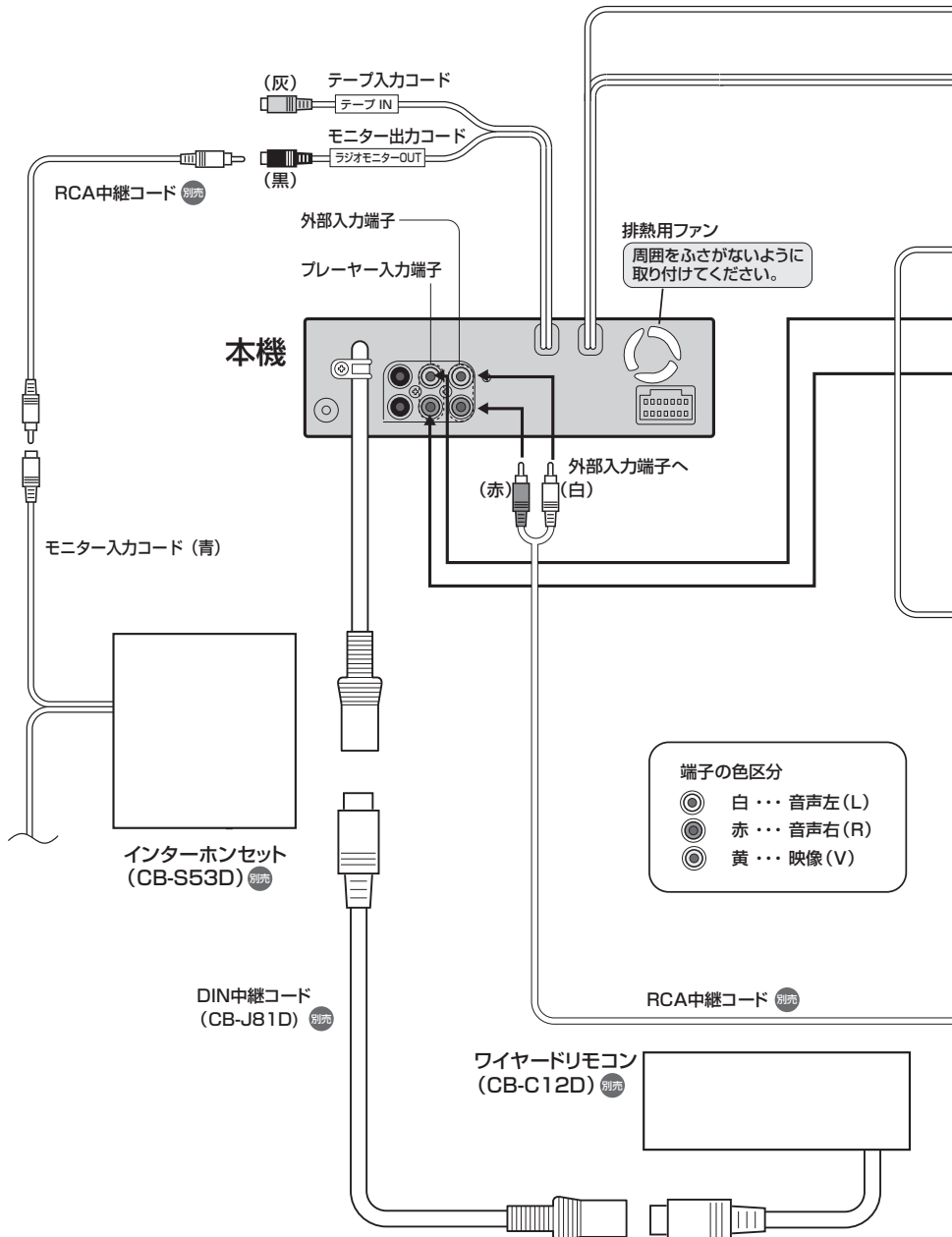


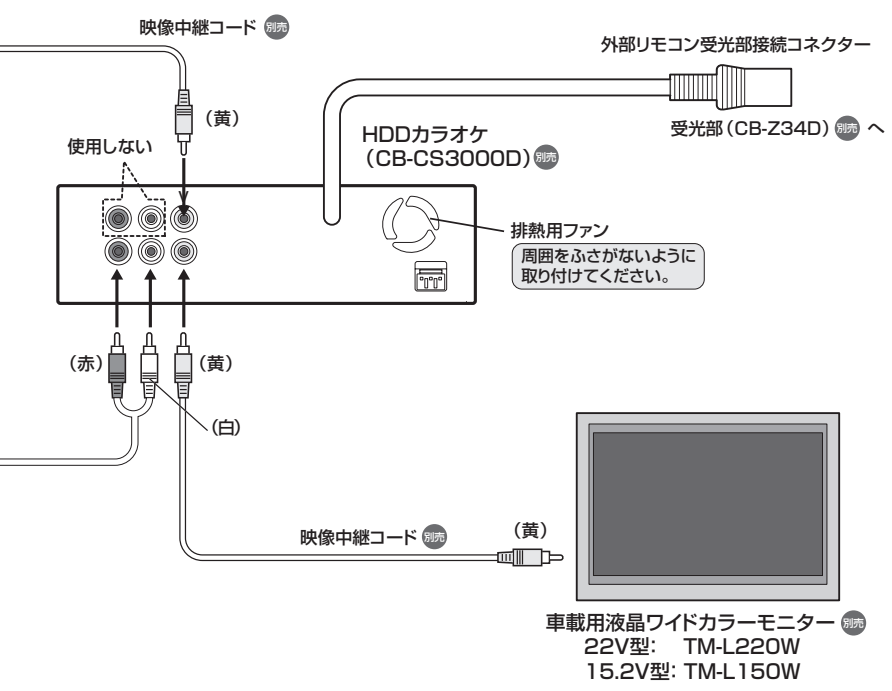
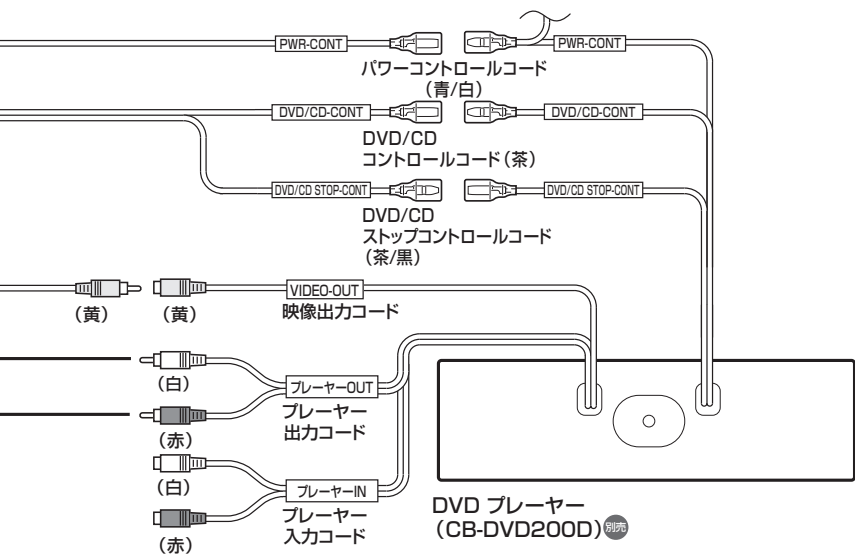
必要なときに

# 配線のしかた

## DVDプレーヤー・HDDカラオケを接続する

接続する各機器の取付説明書も、併せてご覧ください。





必要なときに

# お手入れのしかた

## パネルが汚れたときは

- 電源を切ってから、乾いた柔らかい布で拭いてください。
- ベンジンやシンナー類を使うとケースや塗装が変質しますので、使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用になる場合は、使用上の注意をよく読み、必ずお守りください。



使用しない

# 仕様

## 共通部

電源電圧	: DC 24 V (使用可能電圧範囲 21 V~32 V) マイナスアース (試験電圧28.8 V)
消費電流	: 4.5 A (4 Ω負荷, 定格出力時) 3.0 A (8 Ω負荷, 定格出力時)
定格出力	: 15 W×4 (4 Ω負荷5%ひずみ率時) 10 W×4 (8 Ω負荷5%ひずみ率時)
出力負荷スピーカーインピーダンス	: 4 Ω~8 Ω
案内/客席マイク入力電圧	: 5 mV (10 kΩ)
AUX入力電圧	: 0.5 V (10 kΩ)
CD/DVD入力電圧	: 2 V (10 kΩ)
テープ入力電圧	: 0.25 V (10 kΩ)
ライン出力電圧	: 2 V (定格出力10 kΩ負荷時)
外形寸法	: 178 (W)× 50 (H)×160 (D) mm
質量	: 1.3 kg
モニター出力電圧	: 10 mV

## FMチューナー部

受信周波数	: 76.0 MHz ~ 89.9 MHz
実用感度 (SN比 30 dB)	: 12 dBf
SN比 (MONO)	: 70 dB
ステレオ分離度	: 35 dB
実効選択度 (±400 kHz)	: 70 dB

## AMチューナー部

受信周波数	: 522 kHz ~ 1 629 kHz
実用感度 (SN比 20 dB)	: 25 dB/μV
イメージ妨害比	: 60 dB

本製品の仕様、表示、外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

# アフターサービスについて

## ■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのと、大切に保存してください。

保証期間：お買い上げ日から1年間

## ■修理を依頼されるとき

「故障かな!？」の項目に従ってご確認ください。なおらないときには電源を切って、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。お買い上げの販売店にご依頼に出来ない場合には、お近くの「ご相談窓口」（別紙）へご連絡ください。

### ●保証期間中は

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理をさせていただきます。恐れ入りますが、製品に保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参ください。

### ●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理をさせていただきます。

## ■補修用性能部品の保有期間

本製品の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）は、製造打ち切り後6年保有しています。

修理・お取り扱いなどのご相談は…  
お買い上げの販売店 または  
お近くの「ご相談窓口」（別紙）へ

その他のお問い合わせは…  
「お客様相談センター」へ

## お客様相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-50-8729** コー パナソニック

FAX **045-939-1939**

受付 9:00 ~17:00（土・日・祝日・弊社休日を除く）